

## 第26回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 令和3年9月21日（火） 14:00～15:35

【場 所】 軽井沢町役場 第3・第4会議室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、鈴木幹一委員、須永久委員、  
瀬川智子委員、高尾幸男委員、中嶋聞多委員  
飯塚真由美委員、高橋浩志委員、小林広幸委員  
瀬原史織委員、鷹取健太委員、柳澤陽平委員

### 内 容

#### 1. 開 会

#### 2. 会長あいさつ

##### 会 長

前回の基本会議以降、新型コロナウイルスの感染が大きな山となっていたが、減少傾向にある。ワクチン接種も進み、ウィズコロナ・アフターコロナの議論が現実的に進んできていると感じる。

7月から9月にかけて東京オリンピック・パラリンピックが開催された。大会を通じて多様性というものが大きな議論になり、身近な課題として認識できるようになった。

軽井沢においても、シンポジウム登壇予定の方々等を見ると多様性に富んでいると思う。軽井沢の多様性によって、また新しい軽井沢の価値を見出していけると良い。

川端康成別荘が取り壊されるというニュースを見た。軽井沢には歴史的なものや文化的なもの、素晴らしい自然景観がある。風土フォーラムがブースターとなり、軽井沢の守るべきものと新しい価値について議論を進めていければと思う。

### 3. 議事

#### (1)プロジェクトチーム（PT）の活動状況について

##### 座 長

7月11日に大日向公民館において、「風土フォーラム in 大日向～最近、浅間山の話が多くないですか?～」を開催し、防災講座と住民ワークショップを実施した。当日は、大日向地区の自主防災組織関係者をはじめとする区民18名、PT構成員の推薦による外部の方5名に参加いただいた。

防災講座では、「特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト」で監事を務める中橋徹也氏を招聘し、大日向地区で想定される災害等に関する説明や、早めに避難することの重要性などについて講演いただいた。

ワークショップでは、4つのグループに分かれて、中橋氏の防災講座を受けて感じたことや今後大日向地区で取り組んでみたいことを考えていただき、全体発表を行った。

防災講座等終了後の大日向地区役員会にて、子どもたちを交えた地域歩きをして非常食を食べるイベントをしたいという意見が出されている状況である。

次回のPT会議において、大日向地区への今後の関わり方などについて検討を行う予定である。

#### (2)エリアデザイン検討の進捗について

##### 委託業者

現在5つのエリアにて議論を進めているところである。

新型コロナウイルスの感染状況に応じて、会議延期をしているエリアもあるが、前向きに議論を進めている。

##### ■各エリアの進捗状況等

###### 【新軽井沢エリア】

軽井沢駅前や横町にてイベントを実施する予定で企画検討を進めていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて延期となった。

###### 【中軽井沢エリア】

湯川河川敷の環境整備と活用、商店街の活性化をテーマにして議論を進めてい

る。今後、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、運営会議を開催していく。

#### 【追分エリア】

基本的にオンラインにて会議が開催されており、地域会議は9回開催されている状況である。現在は3つの検討テーマを設けて、具体的な取り組みについて議論している。次回地域会議が終わったところで、これまでの会議で出された意見等を取りまとめる予定である。

#### 【旧軽井沢エリア】

当初は9月上旬に地域会議を開催する予定となっていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、9月28日に延期とした。

#### 【南地区エリア】

当初は8月下旬に地域会議を開催する予定となっていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、9月24日に延期とした。

### (3)シンポジウムについて

#### ファシリテーター

シンポジウムの開催趣旨については、軽井沢の歴史的な背景や近年の状況を踏まえつつ軽井沢ランドデザインの具体的、体現化するような内容とし、22世紀風土フォーラムの活動を総括する形で伝え、自らのふるさとを自らの責任で守ることを理解していただくことになる。

シンポジウムは、今後の軽井沢を担う次世代の方をターゲットにしながら、基本会議で議論してきた未来の軽井沢像が大きなテーマになる。なお、サブテーマについては、①住民の自走、②環境保護やSDGSといった大きな社会課題となる。開催については、11月5日に大賀ホールとし、オンライン配信も予定している。なお、開催当日が長野県の感染警戒レベル5に該当する場合には、全面的にオンラインで開催することを想定している。

シンポジウムは、三部構成を想定している。第一部は、藤巻町長と今後の軽井沢を牽引する方々による鼎談を考えている。軽井沢のこれまでと未来について話しをしていただく。第二部のパネルディスカッションでは、①軽井沢の景観や環境維持の取り組み（エリアデザイン関係）、②次世代を考える教育やテクノロジーを意識した内容にしていきたい。第三部は、総括として、歴代の基本会議会長に登壇いた

だき、これからの軽井沢について議論していただく。各部における登壇者については、各委員からの提案を踏まえて固まりつつあるが、登壇の打診をしたところ、参加不可、保留という方が何名かいる。皆さんから意見をいただき、参加者については会長及び事務局に一任していただきたいと考えている。

#### 【意見交換】

##### A委員

芳野まい氏については、こちらで確認しているところである。もう少し時間をいただきたい。

##### B委員

パネルディスカッション（②次世代を考える）の登壇者については、テクノロジーの分野に精通されている会津泉氏が良いのではないか。

##### C委員

第一部の鼎談の登壇者に、MOTOTECAの代表である星野雅弘氏を推薦したい。

##### D委員

私が提案させていただいた井上英之氏は、パネルディスカッションや鼎談をアレンジすることができる。長野県知事と鼎談された実績もあるので、改めて推薦させていただきたい。

##### ファシリテーター

登壇者については、会長と事務局と調整のうえ、打診させていただくこととした。当日の役割分担の関係についても概ね目処が立っているが、司会進行については未定である。

##### 会 長

当日の進行について、自薦、他薦があればありがたい。特に意見等なければ、私と事務局に一任いただきたい。

町 長

シンポジウムのターゲットは、これからの軽井沢を担っていく方々ということであるが、若い人たちに来てもらうための広報が必要となる。

ファシリテーター

ネット配信や SNS を活用しながら周知していくことになると思う。各委員の皆さんからの情報発信も重要だと思われる。

E委員

オンライン配信したものを、後日動画で見ていただくこともできるのではないか。

ファシリテーター

他にシンポジウムの件について意見等があれば、事務局までお知らせいただきたい。

#### (4)軽井沢の将来への提言について

会 長

風土フォーラムの活動を通じて、将来の軽井沢に向けてどのようなことを目指していくべきかを考え、骨子案を作成させていただいた。

提言は住民自らが考えて行動するための目標としたい。提言目的については、危機感を持ちながら未来への展望を共有し、軽井沢ブランドを高質化することだと考えている。提言内容の実現に向けては、風土フォーラムの活動を進めながら住民一人ひとりが自分で考えて行動する意識を醸成していくことが必要になる。

シンポジウムも貴重な機会であると思う。また、行政による支援も必要になる。今回示した骨子案は基本会議の取り組みのまとめとして、来年2、3月に具体的な内容のもので提言したいと考えている。

※以下、会長より示された提言の骨子案

提言1. 自然、歴史、文化に囲まれた生活空間（守るべき価値）

- ・自然環境、歴史的景観、文化遺産の維持保全、活用

- ・環境負荷の少ないライフスタイルの推進
- ・乱開発を防止し、節度ある活性化を図る

提言2. おもてなしの高質化、国際化（守るべき&新たな価値）

- ・保養、観光（宿泊、飲食など）のおもてなし高質化、国際化
- ・低環境負荷、快適かつ利便性の高い交通、移動手段の提供

提言3. 最新技術活用の行政、住民サービス向上（新たな価値）

- ・デジタル化推進。そのための人材育成、官民連携推進
- ・高度な医療・福祉・教育、多様性実現への活用
- ・居住環境、働き方環境（ワーケーション、テレワーク含）充実

提言4. 災害に備えた安心、安全な日々の暮らし（守るべき価値）

- ・浅間山噴火、大規模災害（豪雨、土砂崩れ等）への危機感の醸成
- ・日常的な防災活動（情報伝達、避難訓練・計画等）の充実

#### 【意見交換】

A委員

今回示された提言は、風土フォーラムから町長に提言するという認識でよろしいか。

会 長

その点については明確に決まっていない。風土フォーラムの活動のまとめとして、住民等への発信や町長（町）への提言ということが考えられる。

A委員

提言内容を具現化していくことが重要であると考えます。風土フォーラムの活動が始まった当初と比べると、住民主体のまちづくりが進んできている。提言をするタイミングとしては、適切だと思われる。

B委員

提言の策定、発表については賛成である。提言内容については、現在町が策定を進めている第6次長期振興計画と関連性を持たせておくべきだと思う。

## D委員

私の知り合いが、町の都市計画マスタープランに関するアンケートが届いたと言っていた。都市計画マスタープランと長期振興計画との関係性について確認したい。

## 会 長

町には、ゼロカーボンに関するロードマップやスマートコミュニティなどがある。町の計画との関連性も重要だが、風土フォーラムとしての想いを分かりやすい内容として発信していくことが重要だと考えている。

## 事務局

都市計画マスタープランについては、概ね四半世紀での計画になる。一方、長期振興計画については、10年の計画となる。今回は両計画の改定時期が重なっている状況である。

## F委員

目的と手段が混在しており分かりにくい印象である。目的については、実現可能な項目とそのクライテリア、実現ロードマップを明らかにした方が良い。

## E委員

風土フォーラムからの提言が、町から発信された内容だと受け止めてしまう人が多いと思われる。行政からの発信ではないということを理解してもらえる内容になると良いのではないか。

## B委員

風土フォーラムからの提言のタイムスパンは、10年後くらいになるのではないか。住民側は複数の計画が示されると混乱してしまうと思われる。根底の部分で長期振興計画と関連性を持たせたいうえで、提言内容を表現する必要があると思う。

## G委員

提言を行うにあたっては、時間的な問題があるのでないか。風土フォーラムの特

徴のひとつに、町職員が委員として参加していることが挙げられる。多様なセクターによって取り組みを進めてきたことを踏まえて、このメンバーならではの提言ができるが良い。

#### D委員

シンポジウムにてエリアデザインの取り組み内容を聞いたうえで、風土自治のモデル化を進めるための提言をまとめられると良いのではないか。エリアを超えたつながりをつくっていくことも重要だと思う。

#### ファシリテーター

本日の議論をもとに、提言に関する骨子案の修正を行うこととしたい。

#### (5)町長あいさつ

##### 町 長

『軽井沢スマートコミュニティ』では、25の取り組みを紹介している。町では2050年までにCO2排出実質ゼロを掲げているため、プラスアルファで新しい施策を実施していく必要がある。

新聞の折り込みで、長野県下における都市の現在と70年前の町並みが比較して示されているのを見たが、昔の方が綺麗で、今は醜い都市になっていると感じた。昔の建物は屋根の傾斜や素材等が同じだったが、現在はばらばらという状況である。この間に経済成長をして技術も発展してきたわけだが、景観については後退しており残念に思う。経済力が高まれば街が綺麗になるということではなく、大きい建物が造られて醜くなっている。ルールづくりやデザイン性では、ヨーロッパに大きく水を開けられている。以前、大学の図書館等で江戸後期と明治初期の写真を見たが、これが日本の過去かと思うくらい綺麗に感じた。現状を踏まえると、色々な意味での強制力も必要なのではないかと思う。

#### 4. 事務連絡

今回はシンポジウムで参集いただく予定であるが、会長と調整を行い、シンポジウム前に基本会議を開催する可能性がある。その際は、改めて連絡させていただ



く。

5. 閉 会